

令和2年度埼玉県共助社会づくり支援事業 事業実施報告書

法人名	NPO法人川越きもの散歩						
事業名	コロナ時代の地域観光を考える～川越・前橋・横浜 絹の道WEBサイト作り						
①事業の目的	「絹文化ゆかり」という共通のテーマをもつ前橋・川越・横浜の市民団体が顔の見える交流をすることで、市民が互いの町に興味をもち、交流人口を増やしまちづくりや地域活性化に寄与することを目的とする。今年はコロナのため交流会が出来ないので、きっかけ作りのWEBコンテンツをつくる。						
②地域の状況(申請時)と課題	川越市はコロナウィルス感染防止による自粛で観光客減少の影響を強く受けている。「遠くから、たくさんの人に来てもらう」観光とはちがうアプローチが必要。この3都市には、地域住民も知らない過去の交流、絹のものがたりがある。						
③事業の対象(者・もの)	横浜		前橋		川越		
④事業内容 ※③の対象ごとに具体的に実施した内容を記入してください。	横浜取材：横浜の街を50年記録し続けているカメラマン町田さんに聞き書き。外国人墓地に眠るGIベビーの話や、シルクを貯蔵した赤レンガ倉庫が廃屋時代の話をきく。元横浜市職員の丸山さんにかつて横浜家具の職人だった曾祖父の生涯を聞く。横浜歴史資産調査会として西洋館、繭蔵の保存に関わった米山氏に横浜とシルクの道について聞く。		前橋取材：幕末に川越藩が前橋へもどるきっかけを作った生糸商人のひとり、初代前橋市長の下村善太郎のご子孫に聞き書き。また、日本で初めての器械製糸所の責任者川越藩上級武士のご子孫や前橋ハリストス正教会会司祭、前橋市「糸のまち前橋発信事業」担当者への聞き書きを行った。シーラさんと前橋のきもの愛好会との交流会も開催。		川越取材：川越市観光課飯野課長インタビュー、服部資料館館長聞き書き。市民活動と川越の織物の復活を卒論のテーマにした学生さんの聞き書き。川越織物市場の再生、時の鐘と横浜生糸商人などのコンテンツの紹介。川越観光協会の「越えていこう、川越」キャンペーンに参加。		
⑤事業実施による成果 ※④の事業により達成した成果を具体的に記入してください。	WEBにて紹介。コロナ終息後に横浜きもの散歩を開催するためのネットワークができた。絹を運んだ鉄道についても鉄道遺産保存も行う米山氏からレクチャーを受けた。横浜に利根川を利用して蚕種を運んだ深谷の旧家古民家の活用再生を横浜歴史資産調査会に相談することになった。		WEBにて紹介。コロナ終息後に前橋きもの散歩を開催するためのネットワークができた。シーラさんがNHKの「世界はほしいものにあふれている」に2週続けて「きもの」番組に出たため、前橋、高崎のきもの愛好家が集い、意見交換をした。川越城から移築された前橋東照宮の取り壊し問題が勃発し、その保存運動に協力することになった。		川越藩士で前橋藩に移り、日本で初めての器械製糸所をつくり、その後富岡製糸場の所長になった速水堅曹という人物を新聞で紹介してもらえた。川越市記者クラブにてシーラさんと藤井が会見。読売・朝日・東京・毎日などの新聞記者が参集した。各紙の記者と名刺交換をしたので今後も個別に広報活動をおこなえる環境整備ができた。		
⑥成果の測定方法 ※⑤の成果を測定する方法を記入して	NPOのFBの閲覧数・記者会見でのマスコミの参加数		NPOのFBの閲覧数・記者会見でのマスコミ参加数		NPOのFB閲覧数・記者会見でのマスコミの参加数		
⑦測定結果 ※⑥の内容を詳細に記入してください。	2月2日―3月3日のFBいいね992。Jimdo.の無料サイトのため、WEBにカウンターは設置できないため、NPOのFBで言い値の数を測定。		上毛新聞にてこのWEB作りが報道され、その記事がシーラさん効果でFBで95シェアされた。		読売・東京・朝日新聞の埼玉版及び、各紙のデジタル版、ヤフーニュースにて紹介された。		
⑧事業実施による課題解決の効果 ※どのような地域貢献ができたか、地域課題解決への効果等を具体的に記入してください。	シーラさんの知名度は高く、横浜、前橋、川越での講演会の要望が多い。来年の交流会でもシーラさんに協力してもらおう。WEBをみた内閣府迎賓館担当者より、迎賓館に外国人、きもの姿の人を増やすための相談をしたいとの問い合わせがきた。緊急事態宣言が解除後に、シーラさんと迎賓館担当を訪問することになった。		前橋市が文化庁と国土交通省の「歴史まちづくり法」の適用によるまちづくりに乗り出すことになり、前橋の協力団体のNPOがフォーラムを開催した。絹文化でつながる市民交流団体として、今後の企画に協力する。また、前橋の団体の会報に寄稿した。		WEB紹介のフライヤーを商店、観光協会などに配布。(市の施設はコロナで閉鎖している。)川越観光協会の1月号の会報に藤井が「時の鐘と横浜の生糸商人」についてインタビューを受けた。埼玉県北部地域振興センター本庄事務所のWEBにて「渋沢栄一ゆかりの絹文化遺産」について藤井が連載を寄稿。		
⑨事業実績	時 期	内 容					
※取組実績について、その内容、実施時期、参加者等を具体的に記入してください。 ※広報実績について時期、対象地域、方法、枚数・回数等を具体的に記入してください。	9月	WEBデザイナー・シーラクリフさんと打ち合わせ・横浜取材・NHK「世界は欲しいモノにあふれている」にシーラさんが2週連続で「きもの」について出演。					
	11月	前橋・川越 協力団体とシーラクリフさん、打ち合わせ・取材 。前橋でシーラさんときもの愛好家の集い開催(18名参加)					
	12月	WEBコンテンツ取材・作成。					
	11月	シーラ・クリフさんと前橋訪問にあたり、上毛新聞前橋支局に情報提供。12月4日の上毛新聞に取材の様子が紹介された。(WEBと新聞)					
	12月	シーラ・クリフさんが英文サイトJapan Forward に前橋での取材の様子を紹介。					
	2月	川越記者クラブでWEB完成の会見を行う。東京新聞(2月14日)、読売新聞(2月19日)朝日新聞(3月5日)に掲載される。朝日デジタル、英文サイトJapan Forwardにシーラクリフさんが寄稿					
⑩連携先の名称と役割 ※団体名、代表者名、担当課、担当者名、連絡先などを記入してください。 ※連携先の数に合わせて、行を追加、削除してください。	連携先の名称		代表者名(役職等)		連絡先(担当課・担当者・電話等)		役割
	川越市	観光課	飯野課長		川越市観光課	049-224-8811	川越 情報提供 広報協力
	さいたま	絹文化研究会	山田禎久	事務局長	川越氷川神社	高麗神社 秩父神社	広報活動協力
	横浜歴史	資産調査会	米山淳一	事務局長	協力団体		横浜 情報提供 横浜案内
	NPO街・建築	*文化再生集団	中村武	副代表	協力団体		前橋 情報提供 前橋案内
⑪連携先との調整状況 役割分担・連携体制 ※連携先団体とどの程度まで連携体制が構築できているか、図などで示してください。 別紙による提出も可 (A4判1枚以内)	川越市観光課	飯野課長のインタビューを掲載。観光協会のFBでWEBサイトの紹介。	川越市の施設にてフライヤーの配布。(コロナで閉鎖中)	横浜歴史資産調査会	米山事務局長のインタビュー掲載。横浜の案内・資料提供。団体のHPにて横浜取材の様子を紹介している。	深谷の中瀬河岸の旧家の建物を横浜歴史資産調査会と見学会を開催。持ち主に活用方法の相談をうけている。	武州銀行頭取、埼玉県議会議長を務めた旧家で渋沢栄一との交流もあり、横浜へ蚕種の輸出にも関わっていた。
	さいたま絹文化研究会	12月・3月に発行の会報にてWEBサイトの紹介。会報にフライヤー同封(170名の会員向け)	高麗・秩父・川越氷川神社にてフライヤーを配布	NPO街・建築・文化再生集団(前橋)	中村事務局長のインタビューを掲載。前橋の取材コーディネート。資料提供。歴史まちづくり法フォーラムへの協力。前橋東照宮保存運動への協力	このNPOの会報に今回のWEB作りについての寄稿を行う予定。	
⑫費用面での工夫	当初はFacebookでの広告費を計上していたが、記者会見に東京、朝日、読売、毎日、の各社が参加、新聞3紙に掲載されたため、広告費はかけないですんだ。						
⑬事業の達成状況 ※③～⑫を踏まえ、事業全体としてどの程度まで目的を達成することができたか自己評価してください。	WEBとフライヤーは県に登録している専門家ボランティアの松本さんに依頼をし、作成してもらった。きれいな仕上がりで好評である。今年はWEB作成と関係団体とのネットワーク作りを目標とした。コロナ禍ではあったが、協力団体のコーディネートでその土地のキーパーソンに話をきくことができ、今までにないオリジナリティのあるWEBができた。Web担当の松本さんの厚意で当初予定のページ数をかなり上回ったが、フジイが後日追加していけるようなデザインにしてもらえた。目標の80%を達成した。						
⑭今年度の反省点	新聞4紙とデジタル版でも紹介されたということは、企画と内容にそれなりの評価があったものと思われるが、Jimdoサイトで開設したため、アクセス解析のサービスがなくアクセス数が不明なところが悔やまれる。また、フライヤーも作成したが、コロナ禍で観光案内所や川越市の施設が閉鎖のため、当初の企画通りに場所に配布できていないことが残念。緊急事態宣言後に配布を行う予定。						
⑮来年度以降、この取組をどのように継続、発展させていくか	コロナ禍が落ち着いたら、WEBで紹介した前橋、横浜、川越の団体や人が集う交流会を開催予定。また、WEBにこの3都市以外の絹ゆかりの訪問地や養蚕農家建物の渋沢栄一生家などを追加していく。行田市の大型養蚕農家を活用したカフェギャラリー高沢家記念館からは、絹文化講座の開催を相談されている。深谷の中瀬河岸の旧家の建物を横浜歴史資産調査会と見学会を開催する。埼玉県川越比企地域振興センター、川越市観光課と今回の協力団体を招いての「絹のものがたりフォーラム」を来年度開催予定。内閣府迎賓館担当と「絹のものがたり」をテーマにシーラさん、提携団体のさいたま絹文化研究会(川越氷川神社山田宮司)と一緒に打ち合わせをする。						